

JA兵庫南の自己改革への取り組み、進捗状況を報告します。



第3回担い手農家懇談会での意見交換について

JA 兵庫南は組合員との対話を深め JA 自己改革に反映させるため、担い手農家の皆さんとの懇談会を開催しました。その内容をご報告いたします。

開催概要

会議日程:8月20日・27日・30日

参加者:野菜・水稲関係認定農業者、作目部会代表者、営農組合代表者、ふぁ～みん SHOP代表者 計59名

JA出席者:常勤役員、営農経済部長、総務部長、JA全農兵庫、営農経済センター長 その他

テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
コスト削減	肥料のビニール袋、苗トレイをJAで引き取って欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 当JAではハウスビニールの回収はこれまでから行っていますが、肥料の空き袋回収はしていません。県内では有料で実施しているJAがありますので調査し今後検討します。 苗トレイについても、育苗センターでの再利用は高コストになるため回収していませんが検討していきます。
	カントリーの搬入に使用するトラックのレンタル費用が負担になっている。JAからレンタルできないか。	<ul style="list-style-type: none"> 非常に難しい問題ですが、検討してみます。
	前回の懇談会でも出ていたが、出荷箱に志方いちじくの名前を入れる件とパックの大きさの件は再度、検討してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度より出荷規格を変更しました。(従来)パック容量500g 出荷箱6パック入り箱に「志方いちじく」を表示 (変更)パック容量400g 出荷箱4パック入り箱は県下統一箱(「兵庫県産」)を表示)を使用し、フタには「志方いちじく」のシールを貼付。従来通りにパック毎に「志方いちじく」のラベルを挿入し「志方産」を強調。 H29と変更前のH28との比較では、Kg当り販売単価は4.5%増加。Kg当り出荷資材費も△20%となりました。変更直後は農家からパック詰め戸惑いや、扱う数量が増えることで労力がかかるとの意見がありましたが、手取りが増えたことで高評価です。また、市場からも少量化したことで販売し易くなったと好評です。
担い手	後継者問題の解決策として、若い人が就農したいと思う儲かる農業にする必要がある。そのためには、米の価格を上げるブランド化のような方策を考えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 米の価格については、最大限の価格で買い取りをしていますので、ご理解をお願いします。全農では実需者と結びついた「顔の見える米づくり」を目指し、外食、中食業務筋等との契約栽培を進めています。これにより、多収性、複数年の数量契約など農家手取りの安定につなげていきます。(全農) ブランド米も含めて地元産米の直売比率を高めていきます。直売所で販売することにより流通経費を圧縮し農家精算額の向上を行います。(JA)

1. 農業者の所得増大

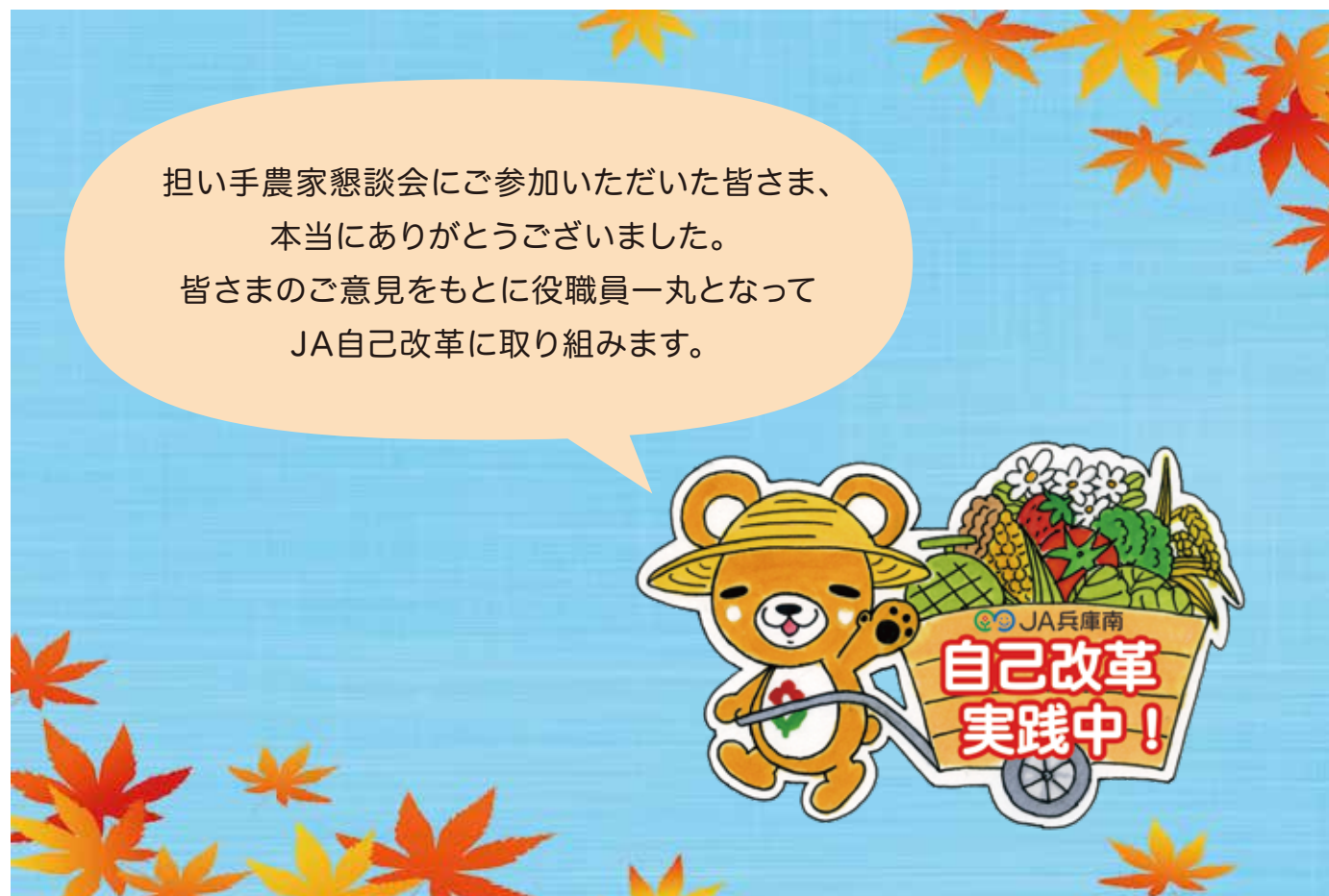
テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
所得アップ	生産の拡大、所得の増大については鳥獣害の問題が非常に深刻な事態になってきている。特に、アライグマの対策についてJAも積極的に力を貸して欲しい。空き家や神社にあるアライグマの棲み家を根絶するような根本的な解決策を検討して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 農業被害、住宅被害の双方で問題になっており、各市町で様々な取組みが行われています。兵庫県の担当部署(自然環境課)によると、対策はやはり捕獲作戦が一番であり、市町からの要請があれば捕獲のための農家向講習会も開いてもらえるようです。これまでからJAも再三アピールしてきましたが、今まで以上に県、市町に訴えていきます。行政との連携体制づくりを働きかけています。
	前回の懇談会で、「JAに農業を相談できるプロがない、農家の話をきちんと聞いて欲しい。」と要望したが、今も何ら変わっていない。JAも全農も生産者の立場に立っていないのではないかと。データの蓄積によるアドバイスをいただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 営農渉外については、外部コンサルタントを入れて「質」を高める活動に力を入れています。(JA) 優良事例や情報については、どんどん発信していきます。(全農)
コスト削減	肥料・農薬大口奨励について、こちらが尋ねないと何も答えてくれない。	<ul style="list-style-type: none"> 大口奨励や担い手割引、利用高配当等の奨励制度について、生産部会等を通じてPRを行います。
	ブロッコリーの鮮度保持用のビニールの袋について、コストを下げる良い方法はないのか。	<ul style="list-style-type: none"> 産地ごとで消費地までの距離などの条件が違うため包装資材が統一出来ていないのが現状です。ブロッコリーに限らず他の品目でも資材を集約化するなど、コスト低減を目指して各産地の調査を始めます。(全農)
	免税軽油の手続きが非常に複雑で、農家にとって負担になっている。JAで代行できないか。	<ul style="list-style-type: none"> 免税軽油の申請は県内各地の県税事務所が窓口です。県税事務所にお問い合わせしましたが「申請は免税軽油使用者本人に限るとなっていることから、JA等が代行して申請することはできない。」との見解でした。
	肥料の予約注文分の引き取り時期について、一括だけではなく、分割引き取りの融通を利かせて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 予約供給では、早期発注、早期引取を原則に割引価格を設定しています。また、JAの倉庫事情も厳しいことから、今後の検討とします。



テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
野菜	直売所、市場の出荷先の調整は取り組める方法があるのでは。	• 昨年のキャベツでは、部会として市場に出荷する中から何ケースか直売所へ回してもらった実績ができました。今後も調整を図っていきます。
	高砂ブロックの生産者が他ブロックの部会に入会はできるのか。	• 各作物部会でのルールがあります。担当者にご相談ください。
	各ブロックで存在する部会の統一を目指さないのか。	• JAとしても統一を目指していきたいと思えます。

3. 地域の活性化

テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
地域支援	子供食堂への野菜提供について、作物を指定されても品数が揃わない時がある。JAからアドバイスをして欲しい。	• 事前に農家の状況を子供食堂側に伝えるように調整します。
執行体制	前回は要望したが、理事のあり方について、部会枠を再度、検討して欲しい。	• 今回、法改正により法要件を満たす理事の地域からの選出を重視したいと考えていますので、部会枠は今のところ考えておりません。



2. 農業生産の拡大

テーマ	出席者からの意見	JAからの回答
生産拡大	機能集約低コストモデル農機トラクターの実物の展示をして欲しい。	• 今回紹介した低コストモデルの農機(ヤンマー製60PS)に加え、イセキ、クボタからシンプルモデルトラクターが発表されました。JA農機センターでは11月17、18日に「農機具展示会」の開催を計画しており、その場で実物を展示する予定です。
	後継者不足、高齢化、所得の増大、生産の拡大の対策として、キャベツのカット野菜加工場をJAで建設して欲しい。	• 単身、共稼ぎ、高齢者世帯の増加に伴い、カット野菜の需要は今後も増加すると思われます。カット野菜工場は衛生面から設備に多大な投資となることから、年間の稼働計画、販売計画、収支計画は必要となります。今後の検討とします。
	面積拡大について、営農渉外や各センターの動きがまるで見えてこない。	• 営農渉外について、面談件数月100件を目標に活動しています。また、提案件数、面積増加も目標を設定しています。 • 農業施設貸与事業やJAハウス導入支援金制度等を活用して新規に就農する方や面積拡大する農家も着実に増加しています。一方では面積の少ない農家にも野菜苗トレイ単位からの推進も行っています。
水稻	営農渉外のレベルアップについて、教育をしっかりやってあげて欲しい。	• 上級営農指導員の資格取得を含め、各種研修会への参加など、積極的に職員教育をすすめていきます。
	播磨地区のオペレーターが減少したため、他地区のオペレーター部会員が対応することになったが、刈り取りのためのコンバインの移動に苦慮している。	• 播磨地区の農作業を魚住、二見のオペレーターに緊急に委託しました。刈取り作業の効率化を図るため、播磨地区のヒノヒカリを志方ライスセンターに転送することにしました。また、オペレーターについては、出来るだけ地元の方を募集しています。コンバインの移動の件については検討します。
	JAがコシヒカリの作付けを勧めておきながら、カントリーの受入期間が短く、タイミングがずれると受け入れてくれない。	• 施設の荷受日程は次年度に向けて検討します。
米の需要を増やすようもっとPRすべきだ。	• 全農では全国レベルでの米消費拡大運動を展開しており、また兵庫県でも同様の活動を行っています。これからも、力を入れていきます。(全農) • JAも広報活動や食農教育活動でPRします。	

第3回担い手農家懇談会の模様

8月20日



野菜関係農家11人の方が参加。重点5品目野菜の作付面積の拡大状況などについて報告しました。農家の皆さまからは、アライグマ等害獣対策、出荷資材等のコスト削減などについての意見をいただきました。

水稲関係農家35人の方が参加。肥料農薬の大型規格品によるコスト削減状況などについて報告しました。農家の皆さまからは、米のブランド化、肥料袋や苗トレイのJAでの引き取りなどについての意見をいただきました。

8月27日



直売所関係農家13人の方が参加。直売所売上高実績などについて報告しました。農家の皆さまからは、こども食堂への野菜提供についてのアドバイス、直売所・市場の出荷先の調整などについての意見をいただきました。

8月30日



今後、2019年2月に第4回の担い手農家懇談会の開催を予定しております。担い手農家の皆さまには、ご参加いただき、多くのご意見をお願いいたします。

～農業の活性化と豊かな地域社会をめざし、創造的自己改革への挑戦!～
「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に掲げ、取り組みます。